

世界の恒久平和を祈り 平和行動を展開

世界の恒久平和と核兵器の廃絶を訴えている連合神奈川は、8月第1週を『ピースウィーク』とし、さまざまな平和行動を展開。8月5日には、市民団体と共に横浜駅西口で『ピースリレートーク』を行ったほか、連合の沖縄、広島、長崎それぞれの平和行動に参加した。

2006 平和行動in 広島

連合は8月4日～6日の日程で開催。連合神奈川柏木副事務局長をリーダーとする11名が、ピースウォークやシンポジウムなどに参加した。

2006 平和行動in 長崎

8月7日～9日の日程で開催。連合神奈川は10名が『核兵器廃絶2006 平和ナガサキ大会』、ピースウォークなどに参加した。

2006 平和行動in 沖縄

6月23日～24日の日程で開催。連合神奈川は21名が参加、『2006 平和オキナワ集会』をはじめ、琉球文化とふれあう平和交流会、『ピース・ワールドワーク』などに参加した。

すべての核兵器廃絶を：連合神奈川ピースウィーク行動・リレートーク

毎月5日を『連合の日』とし、さまざまな街頭行動を展開している連合神奈川。8月は平和運動をメインテーマに、横浜駅西口で、平和を訴えるピースリレートークやチラシの配布などの行動を横浜地域連合とともに展開した。

「政策・制度要求と提言」 行政に提出

連合神奈川は7月11日に開催の『第17回中央委員会』で決定された「2007年度に向けた政策・制度要求と提言」を、神奈川県、横浜市、川崎市、神奈川労働局に提出。各首長らに手交し、意見交換を行った。

07年度に向けた政策提出は1日に神奈川県・松沢知事(写真)、2日、川崎市・阿部市長、3日、横浜市・中田市長へそれぞれ渡された。横浜・川崎市への政策要求提出では、当該地域連合も出席、地域で練り上げた要求と提言も同時に手交された。

神奈川県勤労者植樹祭 育林作業(枝打ち)で体験学習

連合神奈川は7月22日、労協などととも、神奈川県勤労者植樹祭を開催。127名が参加し、ヒノキの育林作業(枝打ち)を行った。勤労者育林祭は山火事で焼けてしまった津久井町の山林に、連合神奈川2000本のヒノキを植え、育林をしているもの。前日までの雨でぬかるんだ斜面に苦闘しながらも、参加者らは作業にはげんだ。当日はくもり空で陽射しは強くなかったものの、汗にまみれての作業となった。育林作業のあとはパーベキューでの昼食交流となった。

(1)

2006 神奈川16 区衆議院補選挙 (10月10日告示・22日投開票)候補

実現男＝後藤祐一さんに政治に対する思いをうかがいました

連合神奈川は10月22日に行われる神奈川16区衆議院補欠選挙に後藤祐一氏の推薦を決定した。この選挙は政権のあり方を問う重要なもの。後藤予定候補に闘いに向けた決意などを聞いた。

千葉：初めまして、朝の街頭演説の直後ですけど、後藤さん元気いっぱいですね。「実現男」のブログを拝見しました。始められた動機というか、きっかけはなんですか？

後藤：ひとつは、役所(経済産業省)のころは政策をつくる、もし国会議員になったら法律をつくるという仕事がありますが、昨年の夏頃に役所を辞めた当時は、何もできないので、やれることからやっという、身の回りの小さな事を実現しよう、と始めて始めました。

千葉：政治っぽい話ですが、今格差とか二極化とか言われていますが、後藤さんの認識はいかがですか？

後藤：経済が復調したとか言われることがありますが、いまは大企業が潤っているだけです。

実際に汗水流して仕事をしている人たちは苦しんでいるのが現状です。政治活動を始めてから、毎日色々な人と握手するのでわかるのですが、工場や屋外で仕事をしている力強い手の人たちから、「地域の経済や中小零細企業の経営はまだ苦しい」との訴えをよく聞いています。額に汗して働く人たちは、まだまだ生活が苦しい状態です。さらに、その所得の格差が、子供の教育の格差につながっています。戦後日本はどんなに貧乏でも努力すれば報われる社会だったはず。私も家がそれほど豊かではなかったのに、学習塾や私立学校には行かず、保育園・小・中・高・大学、すべて公立に行っていました。当時は、校内暴力などはありましたが、学級崩壊など全くなかった。ところが、最近では裕福な家庭は塾にやったり教育にお金をかける一方、そうでない家庭の子が通う公立学校が大変になっています。私は、国会議員になったら、まず公立の小中学校を、安心して通えるように改善し、親の給料や職業に関係なく平等に子どもが希望を持てる社会を創りたいと考えています。

千葉：それから、どんどん人口が減少しているようですけど？

後藤：少子化問題は小手先の補助金などですぐに解決する問題ではありません。子どもを1人育てるのに何千万円もかかる現状を改めないといけません。安心して子どもを公立小中学校に行かせるようにするのは少子化対策でもあります。また、少し意識を変えて、人口が減っても一人当たりの所得が増えれば、ゆとりがある日本になると考えるのはどうでしょうか。具体的には、女性・高齢者・障がい者の方たちなど、働きたくても働くことができない人たちが、働けるような環境をつくることができれば、国の経済全体は縮小しないでやっというと思います。ぜひそのような政策を連合の皆さんと一緒に実現していきたいですね。

千葉：最後に政治家の道を志した理由をお聞かせ下さい。

後藤:政治が官僚に丸投げする現場を見てきました。「隠して、先送りして、やったふりをする」これが官僚の本質です。官僚にだまされない政治家が必要だと思って、自分が官僚を辞めて政治家の道を志しました。実際、官僚が机の上で政策をつくっていると、国民の感覚からどんどんずれてしまっていて、ムダなことにお金をつかってしまっています。国民が本当に求める政策をつくるには、地域の皆さまのお話を聞き続けるしかないと思います。私は、地域の皆さまお一人おひとりのご意見をうかがうため、地域のお宅を一軒一軒歩き続ける活動を地道にコツコツと続けたいと思います。日本の幸せの基本は「家族の幸せ」にあると思います。家族のみんなが幸せに暮らすためには、介護・年金・医療・雇用・交通・治安など、色々な問題を今すぐに解決しなければなりません。一刻も早い政権交代こそが「日本の幸せ」「家族の幸せ」のために必要なのです。

インタビュー

:UI ゼンセン同盟東 京応化工業労組、連合神奈川女性委員会幹事 千葉明日香さん

後藤祐一 プロフィール

1984 年 相模原市立上鶴間中学校卒業

1987 年 神奈川県立厚木高校卒業

1992 年 東京大学法学部卒業、通 商産業省(現経済産業省)入 省

1998 年 スタンフォード大学

客 員研究員

2002 年「構造改革特区」を着想、実現

2004 年 まちづくり3 法(中心街活性化)の企画立案

2005 年 13 年間勤めた経済産業省を退職

現 在 妻、息子(3 歳)、娘(0 歳)の4 人家族。厚 木市在住。
